

＜グループワークで共有された内容＞

【きょうだい支援の現状】

＜きょうだい支援として行っていること＞

○きょうだいへの意図的なかわり

- ・日常的にきょうだいのことを家族の前で話題にしたり、スタッフがきょうだいの存在を意識している
- ・きょうだいに声をかけるようにしている
- ・きょうだいの名前を聞き、カルテに記載している
- ・きょうだいのことも記録に残す
- ・「きょうだいにどう説明するか」について多職種カンファレンスを行い、介入している
- ・両親がきょうだいと過ごせるよう（行事参加、お出かけ）、面会に来なくても大丈夫なようにする

○きょうだいへの具体的支援

- ・入院している子どもからきょうだいへメッセージカードを作ってもらっている
- ・退院時に感謝状を渡している
- ・誕生日にカードを渡している
- ・希望があれば、きょうだいに医師や CLS から病状説明を実施
- ・きょうだいも一緒に参加できるイベント（外来で）
- ・医師がきょうだいにかかわれるよう促進している
- ・緊急時や IC 時など、きょうだいを見る人がいない時に Ns ステーションなどでお預かりしている

○他職種による支援

- ・臨床心理士が入院時から介入
- ・保育士や CNS による関わり、それにより情報共有している
- ・NPO によるきょうだい預かりや遊びの提供

○面会の緩和

- ・基本的に面会は自由で医師による感染チェックを行っている
- ・長期入院（その期間は様々）には面会可となっている
- ・終末期、予後不良の場合は可能としている
- ・感染症の罹患歴、予防接種歴、入室前の感染症チェックにより 15 歳未満のきょうだいの面会が可能

○その他

- ・病棟イベントへのきょうだい参加やきょうだい向けイベントの実施、勉強会の開催などによりスタッフの意識がきょうだいにも向くようになった

＜きょうだい支援において困難に感じていること＞

○看護師の要因：背景など

- ・きょうだい支援に関して経験年数によるばらつき、個人の力量に任されている
- ・看護師は患児に目が向いているため、きょうだいの情報収集ができていない
- ・きょうだいに関するカルテの記録がない
- ・きょうだい支援についての教育が家族へもスタッフへもできていない
- ・かかわる時間がない
- ・日々の業務に追われマンパワーが不足している
- ・きょうだいを見つけても時間がかかるのではと思いついて関わるのが怖い
- ・深く介入することや継続が（スキルの部分で）難しい
- ・きょうだいに目を向けてもらうタイミングが難しい
- ・きょうだいへの説明は親任せになっており、その後の確認ができていない
- ・他職種に任せきりで意識が薄れている
- ・実際にきょうだいが病院に来て、対応するスタッフが決まっておらず介入する方法が難しい
- ・きょうだいに対するマニュアルなどがなく、スタッフによって関わりがばらつきがある

○難しいと感じる場合や場面

- ・病気の説明
- ・状態が悪くなった時の説明
- ・終末期
- ・移植のドナー候補としてきょうだいとかかわるとき（病状により選択肢がない）
- ・思春期、年齢が高いきょうだい、イベントに参加しない中高生のきょうだいへの関わり
- ・直接会えないきょうだいの情報の把握、支援ができない
- ・亡くなった後のきょうだいへの支援
- ・入退院を繰り返す疾患の患者などは、家庭の様子が継続して見えにくい

○家族の要因

- ・家族がきょうだいのことへ目を向けられていない
- ・家族がきょうだいのことを看護師に相談してよいと思っていない
- ・両親の共働きや面会の限りがあり介入時間が限られる

○病院環境

- ・きょうだい待機する場所やきょうだいに関わる機会がない
- ・面会のときにきょうだい預かりの体制がない
- ・人、費用、物品、について資源が少ない

○面会制限

- ・感染対策のため面会制限がある
- ・終末期にならないと病室で患児ときょうだいが会うことができない

○その他

- ・きょうだいドナーについて（断る選択肢を与えない）医師との話し合いが困難
- ・不登校、心の問題等が生じないと、手が出しにくい
- ・きょうだい支援に関するプログラムがない
- ・きょうだいの日の設定が無い。タイミングを作ることが必要だがなかなか難しい

【きょうだい支援の課題についてできること】

○きょうだいの存在に目を向けた意図的な関わり

- ・会うことができるきょうだいには、意図的に名前を呼んで声をかける
- ・きょうだいの名前を覚える
- ・患者や家族と共に日常的にきょうだいのことを話題にする
- ・会えなくてもできることを考えていく。「心の目」をきょうだいに向けていく
- ・きょうだいにも「患者の病気のことを知りたいか」「聞きたいことはあるか」を確認し、知りたいことを伝えるようにする
- ・親が病気の子どもにしか目を向けられない気持ちも受け止めながら、時折きょうだいについても話を振ってみて、きょうだいの話をしてもよいのだ、ということを感じてもらえるようにする
- ・入院初期から関わる

○他職種との協働

- ・きょうだいためのイベントを多職種と協働する
- ・チームできょうだい支援をフォローするシステムづくりを行っていく
- ・スタッフへのきょうだい支援の教育

○看護師のスキルをつけるための支援

- ・今回のように学会レベルできょうだい支援やきょうだいへのボランティア活動について話題にしていく
日常のケアや研究などできょうだいの声を聞いて発信していく

○意識を高めるための取り組み

- ・頑張りすぎず、活動を継続する
- ・活動することによって意味があると体験することで、スタッフ自身も変わっていく

○環境についての考慮

- ・感染上、面会制限は本当に必要なことなのかについて改めて考えていく。

○その他

- ・きょうだい支援についての資金を検討する（寄付金の活用など）